

令和2年度 アレルギー疾患都道府県拠点病院 モデル事業 活動中間報告

岐阜大学医学部附属病院
アレルギーセンター

川本典生

①アレルギー疾患患者や家族に対する相談対応

学校現場のアレルギー対応に関する電子メール相談事業

| | 対応方法 | 時間 | 対応者 | 内容 |
|------|-------|----|----------|--|
| 岐阜大学 | 電子メール | 随時 | アレルギー専門医 | 学校および教育委員会からのアレルギー対応に対する相談を電子メールで受け付けて回答する |

実際に問い合わせのあった質問の例：

Q and A集を作成予定

- 学校生活管理指導票の提出されていない児童がアナフィラキシー症状を発症することもあります。学校で対応などに気を付けることはありますか？
- アナフィラキシーがあり入学当初より別室で食事をしてきた子を他の児童と一緒に教室で食べるようにしたいのですが、注意点はありますか？
- マニュアルを修正中です。アレルギーが入ったメニューを調理後にアレルギーだけとり出す時と最初から混入しないように調理する時の用語を教えてください。
- アナフィラキシーで救急搬送された翌々日にも症状があり、3日でエピペンを2回うちました。このようなことはあるのでしょうか？
- 持久走後のかゆみと発疹の生徒に呼吸困難などの体調に問題がなく暫く様子を見て授業に復帰させました。何かアレルギー反応の可能性はあるのでしょうか？
- アトピー性皮膚炎の重い生徒がいるのですが保健室でできることはありますか？
- アレルギー検査報告書を提出された場合の対応はどうしたらよいですか？
- 日本語の不自由な外国籍の児童生徒に対するよい相談窓口はありますか？

②地域の医師に対するアレルギー疾患研修会の実施

医療従事者向けの研修会

| | 内容 |
|---------------|---|
| アレルギーセンターセミナー | 地域の医療従事者向けのセミナーを開催している。今年度は令和3年1月28日に開催予定。今回は初めて外部講師を招いて、つい最近改訂された小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2020についての講演を行う。 |



- 岐阜県内の医療機関に案内し、オンラインで開催。
- 参加者同士の個人情報を守るために、Web会議システムではなく、Webinarを開催するためのサービスを用いることとした。
- 中間報告作成時点で約30名の登録をいただいている。
- 登録者は内科、耳鼻科、眼科、小児科など複数の科にわたる。登録者の職種は大半が医師だが看護師や薬剤師など複数の職種の登録があった。
- Webinarとすることで、過去のセミナーに参加が難しい遠方からの申し込みも頂いた。
- これ以外に院内医療従事者向けの勉強会を年3~4回開催し、診療レベルの向上に努めている。



③ アレルギー疾患に対する情報提供

一般市民、アレルギー患者さん向けの情報提供

| | 内容 |
|-----------|---|
| Webサイトの構築 | 市民公開講座の案内、医療従事者向けの案内をタイムリーに届ける事、一般市民向けにアレルギー疾患の情報発信を行う事などを目標にWebサイトを構築中 |



- 市民公開講座や専門家向け講習会のポスターの印刷後の感染対策の変更などをタイムリーに届ける必要あり
→Webサイトの構築が急務であった。
- まずは自前で最低限の情報を掲載するWebサイト（左に掲示）を構築し、公開した。その後、コンテンツを作りながらアップデートをすすめている。
- 市民公開講座の申込受け付けの延長やポスター作成後の感染対策の変更などを掲載した。
- アレルギーについての情報やQ and Aなどの掲載を準備している。
- 現在Webサイト構築業者を入れてデザインの刷新を目指して作業中。

注：市民公開講座は岐阜県の予算で実施、他の組織との共催での市民公開講座も計画している



④ アレルギー疾患に係る診断等支援

アレルギー疾患患者さんに対する専門的な医療の提供

| | 内容 |
|-----------------|--|
| 岐阜大学医学部 附属病院 | アレルギー疾患の患者さんの専門的な診療の受け入れを随時行っている。各診療科で取り組みながら、診療科をまたいで紹介し、共同で診療にあたったり、検査技術の共有などを随時行っている。 |

アレルギー関連の紹介患者数：

(令和2年4月以降報告記載時点の2021/1/13までの期間に、当院初診となり、アレルギーセンター構成科への紹介された患者さんでアレルギー関連の病名がついた人；アレルギー関連の病名：気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、食物アレルギーなど)

404名 (受け入れた科：総合内科40人、呼吸器内科34人、皮膚科153人、小児科92人、耳鼻咽喉科63人、眼科22人)

特徴ある診療：アトピー性皮膚炎様の皮疹を認める原発性免疫不全症の精査など、専門的な医療機関の特徴を活かした高度な診療を提供している。

課題：感染症の蔓延などもあり、アレルギー関連の受診も影響を受けた。状況をみながら、初診の受診が複数回延期にり、主治医より連絡をとるなどして状況を確認しつつ受診時期を調整した事例もあった。